

日本アニメーション学会 第20回大会について (第3信)

第20回大会実行委員長を務めます、九州産業大学の黒岩俊哉です。学会の節目となる第20回大会は、九州は福岡での開催となりました。福岡は、特にゲーム・エンターテインメント制作が盛んなことは知られていますが、アニメーションの制作会社も、それに呼応するようにここ数年増加傾向にあります。今回の基調講演では、第一線の制作現場からそれらの状況や動向を見届けてきた松山洋氏をお迎えし「九州のゲーム・エンターテインメントそしてアニメの状況と今後」と題して解説いただき、同時に問題提起を行っていただきます。またシンポジウムでは、福岡でアニメーション制作に携わる三人のパネラーが登壇いたします。監督、プロデューサー、作家の立場から、それぞれの独自の考え方や制作方法、発信方法などを紹介し、福岡とそれ以外の地域、ひいては海外との相違点から、アニメーションに潜在する本質的な問題を探っていきます。さらに今回の研究発表は、15件の発表が予定されておりますが、教育、歴史、メディア論、心理学、意味論、文化論、技術、表現研究から作家・作品研究まで、多岐にわたる幅広いトピックとなりました。時代の変化とコンテキストの多様化は、福岡のアニメーションの状況となにがしか共鳴しているとも感じられます。つきましては会員の皆様にも、新たな知見から討議に参加いただき、活発な意見交換をいただきますようお願い申し上げます。

なお、大会1日目の懇親会について連絡をさせていただきます。会場となる西南学院大学の新しい規定により、この4月からキャンパス内での飲酒ができなくなりました。大変恐縮ではございますが、今回の懇親会では、食費(3,000円)のみを支出いただき、ノンアルコールの発泡ワイン/ビール/梅酒等の飲み物代を、同大学からの寄付によりまかないたいと思います。それにとまって、第二信までにお伝えしていた懇親会費の金額を下げさせていただきましたので、こちらにも積極的にご参加いただければ幸いです。

第20回日本アニメーション学会大会実行委員長 黒岩俊哉

【大会テーマ】

「周縁から生まれるアニメーションの可能性」

【日程】

大会 2018年6月16日(土)、17日(日)
学会総会 2018年6月16日(土)、研究発表終了後

【大会会場】

西南学院大学 西南コミュニティーセンター
1Fホール、1F多目的室
(福岡県福岡市早良区西新6丁目2-92)

【交通手段】

福岡市営地下鉄空港線「西新」駅3番出口から徒歩約5分。

「西新」駅は、福岡空港より約19分、博多より約13分。

<http://www.seinan-gu.ac.jp/accessmap.html>

<https://goo.gl/maps/1SbEYosHevz>

【大会参加費】

会員 3,000円
学生・一般 1,500円

【懇親会について】

2018年6月16日(土)、総会終了後 : 大学院棟1階大ホール
懇親会参加費 3,000円

【プログラム】

6月16日(土)

12:00より受付開始

13:00～13:05 開会式 : ホール

13:05～14:05 基調講演 : ホール

14:10～15:40 シンポジウム : ホール

15:55～16:55 研究発表

セッション1 : 多目的室1-2 (司会: 大橋 勝)

●伊尔凡・牙尔買買提

「オンラインビデオ教材を用いたアニメーション教育のガイドラインの作成」

●布山 タルト

「図画工作・美術教育のためのアニメーション指導モデルの試案」

15:55～16:55 研究発表

セッション2 : ホール (司会: 伊藤 高志)

●一藤 浩隆 「今田智憲と東映動画第2の創業

～1970年代中盤から80年代初頭にかけての営業戦略を中心に～」

●松本 淳 「アニメ製作における資金調達手法の変化について」

17:10～17:40

学会賞授与式 : ホール

17:40～18:40

第21回JSAS通常総会 : ホール

18:50～20:20

懇親会 : 大学院棟1階大ホール

6月17日(日)

9:00より受付開始

10:00～11:35 研究発表

セッション3 : 多目的室1-2 (司会: 小出 正志)

- 佐藤 壮平 / 石原 正規

「曖昧な視覚的手がかりによる動きの判別

: ポイントライトウォーカーにおけるフレームレートの影響」

- 平野 泉 「ホビーアニメにおける「手」の役割」

- 中村 浩 「走行アニメーション仮現運動ISIにおける内的表象について」

10:00～11:35 研究発表

セッション4 : ホール (司会: 津堅 信之)

- ヨアヒム・アルト 「アニメにおける広島原爆投下と「時間」の多様性」

- 萱間 隆 「戦時下のトーキーアニメーション」

- 西岡 英和 「戦前戦中期(1940～1945)の日本アニメーション製作技術発展史
～戦前濫作期から『桃太郎海の神兵』へ～」

11:35～13:00 昼休み

13:00～14:35 研究発表

セッション5 : 多目的室1-2 (司会: 遠藤 賢治)

- 左 卓 「『機動戦士ガンダム00』における象徴表現の二重性」

- 森友 令子 「写実的擬人化の可能性について～“The Jungle Book”の Kaa～」

- 萩原由加里 「政岡憲三とプロパガンダ –鴨川をどりに見る事例から–」

13:00～14:00 研究発表

セッション6 : ホール(司会:陣内 利博)

- 有持 旭 「『Hotel IE』によるパルン分析」

- 大橋 勝 「メアリー・エレン・ビュートの電子描画“Abstronics”」

14:35～14:50

閉会式 : ホール

【基調講演】

「九州のゲーム・エンターテインメントそしてアニメの状況と今後」

松山 洋（株式会社サイバーコネクトツー代表取締役社長）

【シンポジウム】

「周縁から生まれるアニメーションの可能性」

今回のシンポジウムでは「周縁から生まれるアニメーション」と題し、流動するアニメーション未来を検討する。福岡でアニメーションを制作するアニメーション監督、プロデューサー、作家からそれぞれの独自の考え方や制作方法、発信方法などを紹介する。そこには福岡とそれ以外の地域、ひいては海外との相違点があり、特にその差異よりアニメーションに潜在する本質的な問題を見つけることができる。たとえば、クラウドファンディングに代表される新たな制作費の調達方法や、制作者や技術者がその場所をいとわないという制作現場が、次代のアニメーションの「ゆりかご」となりつつある。ネットで接続された同時多発的な制作の現場は、発信源がひとつ、受信者が不特定多数といったマスメディアコミュニケーションの概念をゆるがし、それに変わって不特定多数対多数のチャンネル、さらに発信者と受信者が同一で交換可能であるという構造を生み出している。ここでは距離や時間が、表現の可能性を決定するものではない。一方でこれらの状況は、個人映画・実験映像・アートアニメーションの様式に近づいているとも感じられる。技術の進歩は、平等な権利や条件を与えるようにみえる。しかしそれは「個」の力が、突然世界規模で試されるというスキーマでもある。ここでは、表現者はより先鋭な感覚と直感を持ち得ない限り、深く広い情報の海に沈殿してしまうだろう。シンポジウムでは表現のグローバリズムと、地域の特殊な場所性および多様性の両極を念頭に置きながら、それらのエントロピーとネグエントロピーの間(はざま)の中で、今後のアニメーションがどのような変化を遂げていくかを検討する。

登壇者：

竹清 仁（アニメーション監督 / モンブラン・ピクチャーズ株式会社取締役社長）

麻生 秀一（アニメーションプロデューサー / TriF Studio 代表取締役）

馬場 通友（アニメーション作家 / アトデアアニメーションズ）

モデレーター：

黒岩 俊哉（九州産業大学）

【主催・実行委員会】

日本アニメーション学会第20回大会実行委員会 (日本アニメーション学会)

実行委員長 : 黒岩 俊哉 (九州産業大学)

庶務 : 栗原 詩子 (西南学院大学)

実行委員 : 伊藤 高志 (九州産業大学)

: ブルベス・ジェローム (九州産業大学)

実行委員会事務局

西南学院大学学術研究所424室(栗原)

〒814-0002 福岡県福岡市早良区西新6丁目2-92

Tel: 092-823-4424

Email: jsaskyushu2018@gmail.com